

人間らしい心を忘れた国は瓦解する

総務庁の「世界青年意識調査」(平成元年1月発行)に拠れば、「年老いた親を、どんなことをしてでも養ふか」といふアンケートに対して、シンガポールの74%が最高で、韓国が70%で2位、(台湾は調査に洩れてみましたが、調査すればこれに勝るとも劣らぬ数値を示した事を確信します)アメリカでさへ52%といふのに、日本は僅かに25%でした。また、「自分の利益を犠牲にしても国の為に役立ちたいと思ふか」といふ質問に至っては、シンガポールが62%、アメリカが57%であったのに対して、日本はアメリカの10分の1にも及ばない5.5%であり、調査対象国の中で最低でした。

儒教が最も重んずる徳は「仁」です。これは「人」と「二」とで「人二人」、つまり「人と人」の関係を意味した字で、英語の“human”から作られた“humanity”に符合します。「人間らしさ」と解釈しても良いですが、中味は「思ひやりの心」です。キリストの説く「愛」、釈迦の「慈悲」と同じだと考へても差支へないと思ひます。

「年老いた親を、どんな事をしてでも養ふ」といふ心は「仁」の基礎であり、出発点であります。この心が無いやうな者は「自分の利益を犠牲にしても、国(他人)の為に役立ちたい」といふ心が有てるわけが無い

のです。然し、この心が無くては人間の社会は成り立たないのです。国民の半数以上がこの心を有たなかったら、困難に遭遇したら一溜りも無く滅されてしまひます。5.5%の日本では、外患の虞れが無くても内から瓦解するでせう。

儒教を大切にしているシンガポールや韓国、台湾が、世界で最も目覚ましい発展を遂げ、且「人間らしい心」の持ち主が多いといふ事実から考へれば、「儒教は古くさくて用にならない」といふ考へ方がいかに間違つてゐるか明らかでせう。